

ニッセイ インターネットアンケート ～「勤労感謝の日」について～

日本生命保険相互会社(社長:清水博)は、「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューの一つとして、ホームページ(<https://www.nissay.co.jp>)内の「ご契約者さま専用サービス」にて、「勤労感謝の日」に関するアンケート調査を実施いたしました。

《アンケート概要》

- 実施期間：2024年10月1日(火)～10月31日(木)
- 実施方法：インターネットアンケート(「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニュー)
- 回答者数：11,377名(男性:5,588名、女性:5,618名、無回答:171名)

<年代別回答者数>

[名]

年代							合計
	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	
男性	298	619	906	1,775	1,348	642	5,588
女性	364	811	931	1,694	1,210	608	5,618
合計	662	1,430	1,837	3,469	2,558	1,250	
占率	5.8%	12.6%	16.1%	30.5%	22.5%	11.0%	

《アンケート結果のポイント》

ポイント①

質問 1～2

【仕事をする(選ぶ)上で重要なこと・社内制度について】

- 仕事をする(選ぶ)上で重要なことは、「給料・待遇がいいこと」・「やりがいがあること」が1位・2位。
- どのような制度(福利厚生等)が整っている企業で働きたいかについては、「退職金制度」・「通勤手当支給」が1位・2位。
- 30代以下では、「育児・介護支援(休暇・社内保育所・託児所など)」・「子育てに関する補助」を希望する割合が高い。
- 50代・60代では、「定年延長」を希望する割合が高い。

ポイント②

質問 3～5

【育児・介護について】

- 育児支援制度を「利用したことがある」との回答が34.2%。男女別では男性が女性の半数以下、年代別では30代以下の利用率が高い。
- 「将来的に介護をする可能性がある」との回答が56.2%と半数以上。
- 介護支援制度については、「既に介護をしている」と回答した方のうち「利用したことがある」との回答が16.4%で、30代以下の利用率が高い。

ポイント③

質問 6～13

【対面コミュニケーション・飲みニケーションについて】

- 対面コミュニケーションは87.2%が「必要」と回答。一方、飲みニケーションは「不要」との回答が56.4%と半数以上。
- 「昨年度と比べて飲みニケーションの頻度が増えた」との回答が12.2%と、昨年度(24.3%)より半減した。
- 飲みニケーションに使う平均予算は、75.9%が「変わらない」と回答した。

質問1 仕事をする（選ぶ）上で重要なことは何ですか？※複数回答可（回答者数：10,530名）

質問2 どのような制度（福利厚生等）が整っている企業で働きたいですか？※複数回答可
（回答者数：10,239名）

- 仕事をする（選ぶ）上で重要なことは、昨年度に引き続き、「給料・待遇がいい」・「やりがいがある」がそれぞれ1位・2位。
- どのような制度（福利厚生等）が整っている企業で働きたいかについても、昨年度同様、「退職金制度」・「通勤手当支給」がそれぞれ1位・2位。
- 30代以下では、「育児・介護支援（休暇・社内保育所・託児所など）」・「子育てに関する補助」を希望する割合が高い。
- 50代・60代では、「定年延長」を希望する割合が高い。

■仕事をする（選ぶ）上で重要なことは何ですか？

(%)

順位	内容	全体								
			男性	女性	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
1	給料・待遇がいい	55.0	56.0	53.9	63.2	65.7	61.3	57.4	47.6	33.6
2	やりがいがある	49.4	55.1	43.8	47.6	44.6	48.6	51.1	50.8	49.0
3	人間関係	43.9	38.1	49.8	44.3	48.0	46.1	48.3	39.5	29.7
4	福利厚生が充実している	31.7	29.2	34.0	46.2	44.4	34.0	30.4	25.2	21.0
5	通勤しやすい（職場が近い等）	29.6	23.7	35.4	19.5	26.7	30.9	31.5	33.2	22.1
6	休暇が多い・休暇がとりやすい	27.6	24.4	30.8	31.3	34.6	30.4	28.6	24.5	14.2
7	長期間安定して働ける環境である	26.2	25.4	26.7	23.2	29.6	28.9	29.4	22.0	17.6
8	勤務体系（日数・時間）が自分の希望に合っている	19.6	14.9	24.3	14.3	18.5	19.7	21.4	22.1	12.6
9	自身の個性・能力が生かせる	17.8	19.7	15.9	13.5	16.3	17.4	19.1	18.9	16.3
10	残業が少ない	17.7	14.3	21.1	20.8	26.8	20.2	17.4	14.1	8.8

■どのような制度（福利厚生等）が整っている企業で働きたいですか？

(%)

順位	内容	全体								
			男性	女性	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
1	退職金制度	59.9	64.0	56.0	61.1	65.2	68.2	65.4	49.6	43.7
2	通勤手当支給	53.3	50.2	56.3	56.8	56.6	58.6	56.1	50.1	35.0
3	医療・保険制度	38.9	37.8	40.0	38.1	36.0	37.6	40.5	40.9	35.4
4	住宅手当・家賃補助	35.6	40.1	31.1	52.5	48.5	41.4	33.8	27.5	22.6
5	（有給休暇以外の）休暇制度	33.5	29.7	37.3	38.6	37.7	35.2	36.1	31.1	18.3
6	育児・介護支援（休暇・社内保育所・託児所など）	24.1	19.7	28.3	37.1	42.5	27.7	20.7	16.9	12.3
7	家族手当	23.2	28.4	18.0	24.1	32.9	28.8	21.9	19.1	13.8
8	定年延長	17.3	19.6	14.9	4.5	9.1	14.4	21.6	22.0	15.9
9	子育てに関する補助	16.7	16.0	17.3	31.2	38.0	25.8	9.8	7.7	6.5
10	慶弔・災害見舞金	16.3	15.8	16.7	14.9	19.2	19.1	17.4	14.7	8.9

**質問3 <子育ての対象（18歳以下）となるお子さまがいると回答した方について>
育児支援制度（休暇や時短勤務等）を利用したことがありますか？**

（回答者数：2,072名）

※専業主婦・専業主夫・無職・学生・その他を除く

質問4 介護をする可能性がありますか？（回答者数：10,843名）

質問5 <質問4で「既に介護をしている」と回答した方について>

介護支援制度（休暇や時短勤務等）を利用したことがありますか？（回答者数：587名）

※専業主婦・専業主夫・無職・学生・その他を除く

- 育児支援制度を「利用したことがある」との回答が34.2%。男性が女性の半数以下で、30代以下の利用率が高い。
- 「将来的に介護をする可能性がある」との回答が56.2%と半数以上。
- 介護支援制度については、「既に介護をしている」と回答した方のうち「利用したことがある」との回答が16.4%で、30代以下の利用率が高い。

■ 育児支援制度（休暇や時短勤務等）を利用したことがありますか？

(%)

内容	全体		～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
	男性	女性						
はい	34.2	49.9	57.0	53.0	30.4	19.3	12.7	0.0
いいえ	54.2	37.5	33.7	38.7	56.7	67.2	76.2	100.0
育児支援制度がない	11.6	12.5	9.3	8.3	13.0	13.5	11.1	0.0

■ 介護をする可能性がありますか？

(%)

内容	全体		～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
	男性	女性						
将来的に介護をする可能性がある	56.2	56.8	56.3	63.8	70.1	60.7	45.1	35.9
介護をする可能性はない	35.5	33.8	41.8	34.4	25.6	28.2	41.6	57.6
既に介護をしている	8.3	9.4	1.9	1.8	4.3	11.1	13.3	6.5

■ 介護支援制度（休暇や時短勤務等）を利用したことがありますか？

(%)

内容	全体		～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
	男性	女性						
はい	16.4	16.3	45.5	27.8	15.3	18.2	12.2	5.3
いいえ	70.2	67.3	54.5	61.1	66.1	69.4	74.6	68.4
介護支援制度がない	13.5	16.3	0.0	11.1	18.6	12.4	13.2	26.3

<ニッセイ基礎研究所 生活研究部 准主任研究員 小口 裕 コメント>



仕事をする上で重視する点（質問1）として、「給与・待遇」や「やりがい」が2023年に引き続き上位に挙がっています。

2022年以降に顕著となった物価上昇や生活コストの増加、特に食料品や日用品、エネルギーなどの生活を支える必需品の価格が上昇する中で、一般的に、給与や待遇などの目に見える報酬が重視される傾向が見られており、こうした傾向が結果に反映されていると見ることもできるでしょう。

また、企業に求める福利厚生（質問2）も2023年と同様に「退職金制度」や「通勤手当支給」が上位となりました。ライフステージを問わず安定した収入を確保しながら、直近の生活コストは極力抑制したい、という生活ニーズが表れている結果とも考えられます。

その一方で、「やりがい」も、5割の方が「重視する」と回答しています。近年の労働市場の流動化やキャリアパスの多様化といった環境下で、企業への忠誠心のみならず、自分らしいキャリア形成を重視する傾向が続いていることが伺えます。また、働き方改革やリモートワークの普及に伴い、「休暇の取りやすさ」や柔軟な「勤務体系」も、女性を中心に重視されている傾向にあります。また、世代別にみると、特に20～30代では「育児・子育て支援」関連のニーズが高く、一方で、50～60代では定年延長へのニーズも見られます。共働き世帯の増加を背景とした企業の育児支援への期待や、年金支給開始年齢の引き上げ議論に伴う老後の生活不安が感じられる結果ではありますが、世代を問わず、個々の従業員のライフステージや状況に応じた、柔軟な制度設計が求められているともいえるでしょう。

一方で、福利厚生についてはニーズや期待とともに、「利用実態」とのギャップも特徴的な結果となりました。たとえば、育児支援制度（質問3）は女性の利用率が高く、特に20～30代の女性で利用が進んでいますが、男性の利用率は2割強にとどまっています。共働き世帯の増加や少子化対策として育児支援の重要性が広く認識される一方で、男性の育児参加を促す職場文化の醸成も引き続き求められていると言えるでしょう。

また、介護の可能性（質問4）については、全体の56.2%が「将来的に介護の可能性が有る」と答えていますが、実際に介護をしている人の介護支援制度利用率（質問5）は16.4%と低く、特に介護に直面するであろう40代以降の世代でも2割未満の利用にとどまっており、介護を担う従業員にとっては、まだまだ負担が大きい状況が続いていると思われます。

制度があっても利用が進まない背景には、制度そのものの認知不足とともに、介護を理由にした休暇取得を遠慮する風潮、手続きの煩雑さや制度設計に柔軟性が欠けているケースなど、複数の要因が考えられます。さらに企業によっては介護支援制度の整備が不十分な場合も見られることから、使い手の目線に立った育児や介護の制度整備や拡充は、企業にとって引き続き大きな課題と言えるのではないのでしょうか。

質問 6 職場での“対面コミュニケーション”は必要だと思いますか？ (回答者数：7,465名)

※専業主婦・専業主夫・無職・学生・その他を除く

質問 7 <設問 6 で「必要」「どちらかといえば必要」を選択した方への質問>
職場での“対面コミュニケーション”が必要だと思う理由は何ですか？

(回答者数：6,894名)

※専業主婦・専業主夫・無職・学生・その他を除く

質問 8 職場での“飲みニケーション※”は必要だと思いますか？ (回答者数：8,953名)

※お酒飲みながら語り合い、親交を深めること

質問 9 “飲みニケーション”がある職場で働きたいですか？ (回答者数：9,191名)

質問 10 昨年度と比べて“飲みニケーション”の頻度は増えましたか？ (回答者数：8,413名)

質問 11 昨年度と比べて“飲みニケーション”に使う平均予算は増えましたか？

(回答者数：8,388名)

○対面コミュニケーションは 87.2%が「必要」と回答。一方、飲みニケーションは「不要」と回答が 56.4%と半数以上。

○約 7 割が「飲みニケーションがある職場で働きたくない」と回答。

○「昨年度と比べて飲みニケーションの頻度が増えた」との回答が 12.2%と、昨年度 (24.3%) より半減。

○飲みニケーションに使う平均予算は、75.9%の方が「変わらない」と回答。

■職場での“対面コミュニケーション”は必要だと思いますか？

(%)

内容	全体		～20代	30代	40代	50代	60代	70代～
	男性	女性						
必要	87.2	87.1	88.7	89.1	89.2	88.4	85.3	67.6
不要	12.7	12.8	11.3	10.9	10.8	11.6	14.7	32.4

■職場での“対面コミュニケーション”が必要だと思う理由は何ですか？

(%)

順位	内容	全体		～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	
		男性	女性							
1	連携が取りやすいから	46.7	45.2	48.6	49.2	50.9	47.5	46.8	44.7	31.0
2	非対面より充実したコミュニケーションができるから	39.3	42.4	35.9	31.6	37.2	37.1	43.4	42.2	23.1
3	仕事の生産性が上がるから	35.7	36.7	34.7	36.4	35.6	38.5	37.4	33.4	16.0
4	文字で伝えられない情報が伝わりやすいから	34.5	33.5	35.5	27.8	37.3	35.1	37.4	33.0	14.2
5	仕事の悩みを相談できるから	27.6	26.8	28.9	38.7	33.0	29.6	26.0	21.4	20.6

■職場での“飲みニケーション”は必要だと思いますか？

(%)

内容	全体		～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	
	男性	女性							
必要	10.9	15.4	6.0	9.9	8.9	12.0	10.3	11.4	14.5
どちらかといえば必要	32.6	36.7	28.4	34.4	34.1	32.6	33.1	32.4	25.7
どちらかといえば不要	29.0	24.7	33.7	33.2	32.5	29.8	28.4	28.1	21.5
不要	27.4	23.2	31.8	22.5	24.5	25.6	28.1	28.1	38.3

■“飲みニケーション”がある職場で働きたいですか？

(%)

内容	全体		～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	
	男性	女性							
はい	29.8	38.1	21.4	33.1	29.2	31.9	28.9	28.8	30.3
いいえ	70.2	61.9	78.6	66.9	70.8	68.1	71.1	71.2	69.7

■ 昨年度と比べて“飲みニケーション”の頻度は増えましたか？

(%)

内容	全体		～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	
	男性	女性							
増えた	12.2	13.6	10.5	16.6	13.8	14.4	13.9	7.3	2.5
減った	16.1	17.7	14.1	13.3	16.8	15.9	14.9	17.4	20.6
変わらない	71.8	68.7	75.4	70.2	69.4	69.7	71.2	75.3	76.9

■ 昨年度と比べて“飲みニケーション”に使う平均予算は増えましたか？

(%)

内容	全体		～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	
	男性	女性							
増えた	11.9	13.9	9.4	17.2	12.1	14.4	12.9	8.2	4.0
減った	12.2	13.3	10.7	9.1	12.5	11.3	10.8	14.5	18.0
変わらない	75.9	72.8	79.9	73.7	75.3	74.3	76.3	77.4	77.9

質問 12 <設問 8 で「必要」「どちらかといえば必要」を選択した方への質問>

その理由は何ですか？ ※複数回答可（回答者数：4,594名）

○飲みニケーションが「必要」「どちらかといえば必要」と回答した理由として、「本音を聞ける・距離を縮められるから」との回答が全体の54.5%と最多。次いで「情報収集を行えるから」が35.9%。

■ 職場での“飲みニケーション”が必要だと思う理由

(%)

順位	内容	全体		～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	
		男性	女性							
1	本音を聞ける・距離を縮められるから	54.5	55.4	53.2	48.8	52.0	55.9	59.9	55.2	33.6
2	情報収集を行えるから	35.9	38.0	33.1	34.2	36.5	36.2	36.8	36.9	28.0
3	人脈を広げられるから	30.1	31.2	28.5	32.5	33.3	32.9	29.9	28.5	19.9
4	仕事の悩みを相談できるから	29.4	30.1	28.7	39.0	37.3	35.6	26.9	21.5	24.3
5	ストレス発散になるから	26.9	28.7	24.5	21.4	24.9	28.0	30.5	25.2	20.6
6	お酒が好きだから	13.6	15.7	10.4	18.0	14.2	13.3	13.3	13.6	10.6

質問13 <設問8で「不要」「どちらかといえば不要」を選択した方への質問>
その理由は何ですか? ※複数回答可 (回答者数: 5,346名)

○飲みニケーションが「不要」「どちらかといえば不要」と回答した理由として、「気を遣うから」との回答が全体で48.3%と最も多く、次いで「仕事の延長とを感じるから」が33.7%。

■職場での“飲みニケーション”が不要だと思う理由

(%)

順位	内容	全体								
		男性	女性	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	
1	気を遣うから	48.3	44.2	51.6	54.2	51.7	50.9	51.2	41.7	34.6
2	仕事の延長とを感じるから	33.7	31.9	35.2	30.9	36.8	34.5	37.3	30.4	19.7
3	お酒が好きではないから	28.8	26.1	30.9	32.7	29.7	28.6	28.8	27.8	26.6
3	拘束時間が長いから	28.8	29.7	27.8	33.3	33.1	32.1	28.7	25.6	16.9
5	お金がもったいないから	28.4	30.4	26.6	37.9	35.7	33.9	28.7	20.9	11.1
6	職場でコミュニケーションが十分取れているから	18.8	18.5	19.2	17.3	21.6	17.8	19.3	19.1	13.3
7	職場の人が嫌いだから	6.9	7.4	6.3	6.1	7.0	8.2	9.0	4.3	2.2
8	説教をされたくないから	5.9	7.3	4.6	6.4	7.5	6.7	5.7	4.9	3.3

<ニッセイ基礎研究所 生活研究部 准主任研究員 小口 裕 コメント>

対面でのコミュニケーションが必要と回答した人が87.2%となり、昨年が続いて9割に迫る結果となりました。理由として「連携が取りやすい」「生産性が上がる」などの実務的な理由が挙がっており、2020年のコロナ禍に伴うリモートワークの拡大以降、仕事の効率化や円滑な連携のための「対面の価値」が多く職場で再認識されている様子が伺えます。

その一方で、飲みニケーションについては、不要と回答する割合が56.4%（不要+どちらかといえば不要の合計）に上り、昨年と同様に5割を超えました。

特に、飲みニケーションの頻度について増えた（12.2%）割合は、昨年（同24.3%）と比べて半減しており、これは20～50代に共通した傾向となっています。一般的に、世代を問わず、働き方の多様化や仕事とプライベートの分離が進んでいると言われており、従業員が個人の生活を重視する傾向が強まっていることや、コロナ禍によって生まれた新しい働き方や生活スタイルが着実に根付いていることが伺える結果とも言えるでしょう。

さらに、飲みニケーションに使う平均予算について、約75%が「変わらない」と回答しています。これは現状維持というより、物価高や人件費高騰によって飲食業界の価格改定が進みつつある環境下で、飲みニケーションに割く予算や、他の生活費とのバランスを慎重にならざるを得ず、「予算を増やせない」という実情を反映しているとも考えられます。

昨今、物価高騰は少しずつ落ち着きを見せ始めてはいるものの、こうした社会環境は今後すぐに大きくは変わらないと思われます。企業としては、引き続きリモートワークと対面業務のバランスを取りながら、対面コミュニケーションの機会を提供する一方で、従業員の経済的な負担を意識して、飲みニケーションに依存しないチームビルディングのあり方について、今後も創意工夫を重ね続けていく必要があると言えるのではないのでしょうか。

以上

2024-2196G, 広報部